



みんな なかよく げんきに のびよう

三つの宝「①つくしくまわりを ②がおてあいさつを ③ちんとくつならべ」

令和6年度 第23号
熊本市立植木小学校
令和6年7月2日
校長 東田 昌樹

地域の方々に支えられている植木小学校

昨年度、植木の「夏祭り」が30年ぶりぐらいに復活しました。実行委員会の方々が次のようにおっしゃっていました。

子どもたちのために、祭りを復活させました。

子どもたちが楽しめるように、子どもたちが植木のことがますます好きになるように、子どもたちが大きくなって自分のふるさとを大事に思えるように。そのような願いが込められた「夏祭り」です。

「祭り」は「祀る」が語源ということで、神様に感謝するという意味から来ているようです。日本人は「ハレ」（非日常のこと）と「ケ」（日常のこと）という考え方があります。祭りは「ハレ」であり、非日常をしっかりと楽しんで、「ケ」である日常生活をまたがんばろうという考え方です。だから、日本人は祭りが好きですし、祭りは盛り上がるのです。



実行委員会の方々は、何回も集まって祭りを成功させるための会議をされています。植木小学校の保護者の皆様にも、実行委員会に入っている方がいます。

子どもたちの出番があります。4年生、5年生、6年生は、4年生のときの運動会で踊った「よさこいソーラン」を踊ります。そして、子どもたちはそれとは別の踊りもします。「植木わくわく夏祭り音頭」というオリジナルの踊りがつくられました。また、「空き缶ダンス」「サンバおてもやん」も踊ります。これらの踊りは、地域の方々に教えてもらっています。日本フォークダンス連盟の熊本県支部副会長の木原美代子様をはじめとした方々です。

子どもたちの中には、大人になって植木の地を離れる人もいます。子どもたちが大人になってふるさとの植木を思い出すときに、「夏祭り」の風景が浮かぶことでしょう。将来、植木の地を愛し、植木の地で過ごす人は、実行委員になって次世代の子どもたちを楽しませているかもしれません。

復活したと言えば、昼休みの「お話会」が5年ぶりに復活しました。熊日童話会の顧問である吉永千草様をはじめ、植木小学校の保護者の有志の方々にお願いいただいています。

昼休みの音楽室は、パネルシアターや絵本の読み聞かせて知的な空間となりました。まるで映画のように、お話の世界に入り込むことができました。

今回の「お話会」は7月11日（木）の昼休みです。この日は引き続き5校時に、1年生の子どもたちにパネルシアター「あいうえ王さま」や絵本や詩の読み聞かせをしていただく予定です。

さらに、4年生、5年生、6年生の希望者ですが、週に1回程度の「学びたいむ」があります。講師は今関フサヨ様、宮尾龍子様です。放課後の1時間程度ですが、補習をしていただいています。参加している子どもたちはシーンとして集中した中、学習を頑張っています。わからないときに自分から講師の先生に質問をしています。

様々な形で、地域の方々に支えられている植木小学校です。

【本校の教育目標】

気づき・考え・行動する自立と共生の力を備えた子どもの育成
～ どの子ども大切にされ、どの子ども成長する学校をめざして ～

